

第 16 回 日本視機能看護学会会員情報交換会セミナー交流会報告

■テーマ：

点眼治療の継続が困難な患者さんへの指導の工夫

■日時：2023年5月27日（土）14：00～15：30

■参加人数：13 施設 17 名（日本視機能看護学会役員含む）

■講師：高橋嘉子先生（医療法人社団済安堂 井上眼科病院 薬剤課 課長）

■アドバイザー：大音清香（日本視機能看護学会名誉理事長）



今回は井上眼科病院薬剤課課長の高橋嘉子先生にご講演をお願いし、点眼継続が困難な患者さんに対し工夫している点について、指導方法、指導ツールをご教授頂きました。

実際に使用されている点眼表の作成の工夫として、患者個々に合わせた点眼表のサイズや色の工夫など視機能が考慮されたものでした。また、点眼手技不良の患者さんの指導方法として動画をとって一緒に確認し改善していく事など、個別性を考慮した指導方法についての具体的なアドバイスを頂きました。

更には点眼治療の継続が困難な事例をご紹介して頂き、認知症患者さんへの指導の難しさについて患者自身の意思決定も尊重しながら、どこまで介入していく事ができるかという課題についても参加者の皆様と共有する事ができました。

点眼指導については、アドヒアランスの問題もあり、治療課程や社会的役割の影響にて、点眼継続が難しい事例もあるため、関わり方や介入のタイミングについても苦慮するケースもあり、アドバイザーの大音名誉理事長より、人としての関わりという視点を大切にしていく事をご教授頂き参加後アンケートでもそれぞれの課題を見つめなおす機会となりました。

次の課題として、患者さんの抱えている問題について社会福祉制度を含めた地域連携や退院支援についても意見交換会を継続していきたいと考えております。